

(五)	た	収	け	困	掛	(四)	(三)	(二)	(一)
a	そ	こ	で	ら	窮	<p>困窮しているときには助け合うことで人々の生は営まれているということ。</p> <p>未払いによる高取引上の不均衡があっても、相手に配慮を示されたら返礼し、</p> <p>は客に任されているという了解が売り手と買い手の間が共有されているから。</p> <p>商品の対価を支払う責任が客にあるのはもちろんだが、いつ支払うのかの判断</p> <p>ことでは入れ時の優遇を図り、緊急時の備えになまるとした利得を生むから。</p> <p>後払いの客認が、余剰の現金を欠く者も得意客として確保し、販売数を稼ぐ</p>	<p>後払いの客認が、余剰の現金を欠く者も得意客として確保し、販売数を稼ぐ</p> <p>ことでは入れ時の優遇を図り、緊急時の備えになまるとした利得を生むから。</p> <p>商品の対価を支払う責任が客にあるのはもちろんだが、いつ支払うのかの判断</p> <p>は客に任されているという了解が売り手と買い手の間が共有されているから。</p> <p>未払いによる高取引上の不均衡があっても、相手に配慮を示されたら返礼し、</p> <p>困窮しているときには助け合うことで人々の生は営まれているということ。</p>		
暖	こ	と	き	れ	に				
日未	に	へ	な	た	応				
b	相	の	く	と	い				
慣	互	返	て	い	て				
c	扶	礼	も	う	ツ				
拘	助	が		感	ケ				
泥	の	得	支	覚	を				
	気	ら	払	を	設				
	風	れ	い	抱	定				
	が	れ	の	く	ず				
	醸	ば	猶	こ	る				
	成	よ	予	と	際				
	さ	い	を	で	に				
	れ	と	相		助				
	子	納	手	代	け				
	こ	得	に	金	た				
	と	で	与	が	え				
	き	え	回	助	る				

第二問

(三)	(二)	(一)		
この喪服は先帝を徳ぶ形見だと思ふと、その袖が絶えず涙に濡れるという事。	作者がお召しを待たされたかのように再出仕するのは嘆かむという事。	エ	ウ	ア
		エ このようにして自分の心がもとで弱ってゆけばよい	ウ 慕わしく思い申し上げるけれど	ア 長年、宮仕えをしていらつしやるおんがけの立派さ

第三問

(三)		(二)		(一)		
価値のない書物を著していること。	近年の著者たちは、自分の意見を述べることなく、剽窃して	展開するのだということ。	どうしても述べずにいられないことがあればこそ、書物を著し自説を	d	c	b
				内容はかたよりのあるが	丘や山のように大きな利益	その時だけの満足を求めること